

資料番号	20010719
差出人	医療委員会
受取人	
採取方法	末梢血幹細胞採取
通知区分	緊急安全情報
事例分類	採取産物・採取バンク関連

タイトル	尿道、前立腺部損傷を生じた事例
本文	<p><経緯>①全身麻酔導入後、膀胱バルーンカテーテルを挿入。バルーン膨隆時にも抵抗感はなかった。この時、外尿道口よりごくわずかな出血を認める。②採取終了③体位変換した際、尿道口より出血が認められる。14Fr カテーテルを抜去したところ鮮血が噴出。圧迫により出血を収めると共に、泌尿器医師をコール。腹部エコー施行 膀胱内に出血認めず。④22Fr スタイレットバルーンカテーテルにて、牽引固定し止血に成功。⑤絶対安静及び鎮痛剤投与にて経過観察⑥10 日後、止血を確認し抜去。※その後退院。フォローアップ終了【財団の対応】平成 14 年 9 月 19 日「尿道損傷にて退院延期となった事例」安全情報発出</p>

別紙タイトル	損傷を生じた事例
別紙本文 1	
別紙本文 2	<p>さい帯血の採取や凍結保存、検査データの管理を行います。また、さい帯血移植に関するデータも管理するとともに、よりよい移植するための評価も行っています。個人情報の管理は厳密に行い、プライバシーの保護には十分配慮しています。</p>